

北海道の在宅高齢者における健康寿命関連ライフイベントの発生状況

Incident Rate of Life Events Related to Healthy Life Expectancy among Community-dwelling Older People in Hokkaido

小坂井 留美¹⁾ 上田 知行²⁾ 佐々木 浩子³⁾ 井出 幸二郎²⁾ 花井 篤子²⁾
小田 史郎¹⁾ 本間 美幸¹⁾ 黒田 裕太²⁾ 本多 理沙⁴⁾ 小川 裕美^{4), 5)}
小田嶋 政子^{4), 5)} 相内 俊一^{4), 5)} 沖田 孝一²⁾

Rumi KOZAKAI¹⁾ Tomoyuki UEDA²⁾ Hiroko SASAKI³⁾ Kojiro IDE²⁾ Atsuko HANAI²⁾
Shiro ODA¹⁾ Miyuki HOMMA¹⁾ Yuta KURODA²⁾ Risa HONDA⁴⁾ Hiromi OGAWA^{4), 5)}
Masako ODAJIMA^{4), 5)} Toshikazu AIUCHI^{4), 5)} Koichi OKITA²⁾

キーワード：健康寿命，ライフイベント，高齢者，北方圏

I. 緒言

北海道の高齢者における健康寿命の延伸と地域の活性化を目指し、本研究センターでは、赤平市と協力して平成27年度より「高齢者の健康寿命延伸のための赤平市調査」(以下、赤平調査と略す)を開始した¹⁾。本調査研究の柱として、1)健康寿命に影響を及ぼす要因分析、2)非運動者の健康寿命関連要因および運動阻害要因の検討、3)地域のネットワーク要素の検討を設定し分析を進めている。健康寿命に関連する要因の検討には、高齢期の重大な健康課題となる死亡、要介護認定、認知機能低下、入院・施設入居の発生に向けた分析が必要となる。これらアウトカムにあたるいくつかのライフイベントの発生状況は、人口動態調査結果等で確認できるものの、個人内要因や地域環境との関連の分析は道内でまだ十分行われていない。赤平調査では、ライフイベント情報について赤平市の連携部署の管理下で整理し、関連要因との分析に向けた準備を進めてきた。本稿では、本調査参加者の平成28年度までの健康寿命決定に関わるライフイベントの発生状況について報告することとした。

II. 赤平調査について

赤平調査の詳細は昨年度報告を参照されたい¹⁾。本稿では、結果の理解に必要な情報について一部を再掲する。

1. 対象者

対象者は、住民基本台帳から平成27年1月1日時点で60～79歳である住民を性と5歳毎の年齢群で層化無作為抽出(125名×8区分：1000名)した在宅高齢者であった。最終的な参加者は428名(参加率42.8%)であり、性・年代別の参加者数に有意な差はみとめられなかった(表1)。測定会参加者には、書面と口頭で調査の概要、個人情報保護、調査の利益と不利益等について説明し、調査への同意が得られた場合には同意書へ署名を頂いた。郵送調査については、書面で上述の内容を示し、アンケートの返送をもって調査への同意とした。本研究は、北翔大学大学院・北翔大学・北翔大学短期大学部研究倫理審査委員会の承認を受けて実施した(承認番号：HOKUSHO-UNIV：2015-002)。

2. 健康寿命にかかわるライフイベント

健康寿命の算出は、厚生労働省研究班が中心となって

1) 北翔大学生涯スポーツ学部健康福祉学科
2) 北翔大学生涯スポーツ学部スポーツ教育学科
3) 北翔大学教育文化学部教育学科
4) 北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター
5) NPO法人ソーシャルビジネス推進センター

表1 性・年代別参加者数

	年齢群 (歳)				合計	(%)
	60-64	65-69	70-74	75-79		
女性	46	63	57	53	219	(51.2)
男性	37	61	53	58	209	(48.8)
合計	83	124	110	111	428	(100.0)

カイ二乗検定：ns.
(文献1より)

進められているが²⁾、算出は政府統計データが用いられている。本研究では、北海道の特性を加味した包括的な健康寿命延伸への要因解明や対策推進を目的とするため、健康寿命そのものの算出ではなく、健康寿命の決定に関わる①死亡、②介護認定、③認知機能低下、④入院・施設入居を捉え、その関連要因を明らかにしていくこととした。本研究では、これら①～④を健康寿命関連ライフイベントと表現することとした。認知機能低下を除くライフイベントデータは、赤平市の本研究担当部署で毎年度末時点で集約し確認する体制とした。

Ⅲ. 結果

表2は、平成28年度末現在（平成29年3月31日）での死亡等の発生件数を示した。ベースライン調査（平成27年9月～10月）から約1.5年間において、全体の約94%では健康寿命の阻害に関連するようなイベントは発生していなかった。一方、死亡は1.4%、要支援・要介護認定は1.9%、入院は2.3%発生していた。転出は2件あり、今後の追跡は不可能となる。尚、平成27年度末における集計（データ未発表）からの異動では、要介護から死亡・入院へのケース各1件、退院と見込まれるケース2件、要介護から要支援への改善と認められるケース1件があり、その他死亡1件を除いては平成27年度末から28年度末までの1年間での新規発生であった。

Ⅳ. 今後の研究にむけて

「高齢者の健康寿命延伸のための赤平市調査」では、柱とした3課題に向けて検討を進め、非運動者の特性などを明らかにしてきた³⁻⁵⁾。中間年度である今年度は、横断的な検討を経て縦断的な検討に進むべく分析と調査準備を進めた。主課題となる健康寿命について、関連するライフイベントは約6%の発生を確認した。関連要因の解明にはさらに長期間の観察が必要となるが、平成29年度末までにイベント発生の分析に必要な要因の抽出や解析モデルの検討を進めて行く。また、健康寿命に関連するライフイベントの一つとして認知機能低下も設定しており、この検討に向けては平成29年9月から第2回の

表2 健康寿命関連ライフイベントの発生件数

	男性		女性		合計	
	人	%	人	%	人	%
死亡	5	2.4	1	0.5	6	1.4
要支援1	0	0.0	2	0.9	2	0.5
要支援2	1	0.5	1	0.5	2	0.5
要介護1	1	0.5	1	0.5	2	0.5
要介護2	1	0.5	0	0.0	1	0.2
要介護5	0	0.0	1	0.5	1	0.2
入院	7	3.4	3	1.4	10	2.3
転出	2	1.0	0	0.0	2	0.5
異動なし	192	91.9	210	95.9	402	93.9
合計	209	100.0	219	100.0	428	100.0

認知機能検査を実施している（平成29年9月30日現在継続中）。ベースラインから約2年後の認知機能の変化の分析に向けて、低下の発生頻度や低下の有無による特性の検討を行っていく。本研究を推進し、継続的な検討で得られた知見を対象地域の健康づくりに還元するとともに、基礎的な研究と実践的な運動プログラムの開発、生理学的検証を連結させた健康寿命延伸に向けたシステム構築と対象地域の拡大を目指していく。

Ⅴ. 要約

本研究分野は、北海道の層化無作為抽出の高齢者を対象に、健康寿命延伸に向けた調査を進めている。今年度は中間年度にあたり、本稿では、アウトカムとなる健康寿命関連ライフイベントの発生について基礎的な集計を行い6%の発生を確認した。北海道の特性を加味した健康寿命に関するコホート研究はまだ十分でなく、自治体との継続的な協力の下、長期間の観察を通して高齢者の健康寿命延伸に向けた要因の解明や効果的な運動プログラムの開発を目指し研究を進めて行く。

付記

本研究は、平成27-29年度文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の助成をうけて実施した。

申告すべき利益相反なし。

謝辞

本調査にご参加いただいたみなさま、調査スタッフのみなさまに感謝申し上げます。

文 献

- 1) 小坂井留美, 上田知行, 佐々木浩子他: 高齢者の健康寿命延伸のための赤平市調査について. 北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター年報, 7: 97-101, 2016.
- 2) 橋本修二 (グループ代表): 厚生労働科学研究健康寿命のページ. [<http://toukei.umin.jp/kenkoujyumyou/>], Accessed 2016.10.15.
- 3) Kozakai R, Ueda, T., Sasaki, H., et al.: Social isolation as a risk of a non-exercise lifestyle among community-living older people in Hokkaido. The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine, 5 (6) : 487, 2016.
- 4) Sasaki H, Ueda, T., Kozakai, R., et al.: Health, sleep and food intake classified by exercise level in elderly people. The Journal of Physical Fitness and Sports Medicine, 5 (6) : 487, 2016.
- 5) 佐々木浩子, 上田知行, 小坂井留美他: 高齢者における運動実施状況の違いによる健康状態, 睡眠と食品摂取状況. 北翔大学北方圏生涯スポーツ研究センター年報, 7: 109-116, 2016.

Abstract

In the second year of our comprehensive study project for healthy longevity in Hokkaido (the Akabira Study), we summarized the incident rate of life events related to healthy life expectancy. The life events were set as death, certification of long-term care needs and hospitalization. The total incident rate of the life events was 6% by the end of March 2017. We are continuing our research to find out predictors for healthy longevity and develop valid sports programs in the northern region.

Keywords : healthy life expectancy, life event, older people, northern region